

経営比較分析表（令和2年度決算）

北海道稚内市 稚内こまどり病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床未満	自治体職員 その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	1	-	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
33,032	4,570	第2種該当	-	20:1

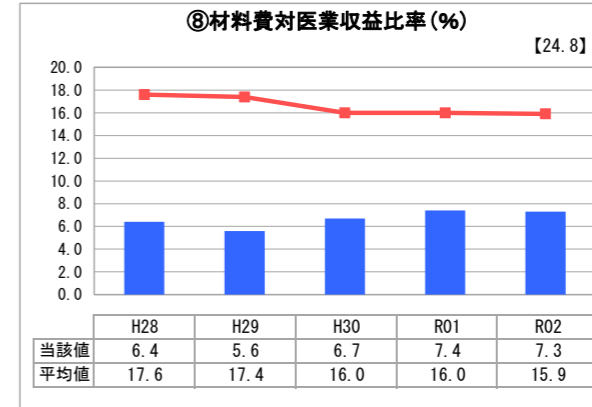
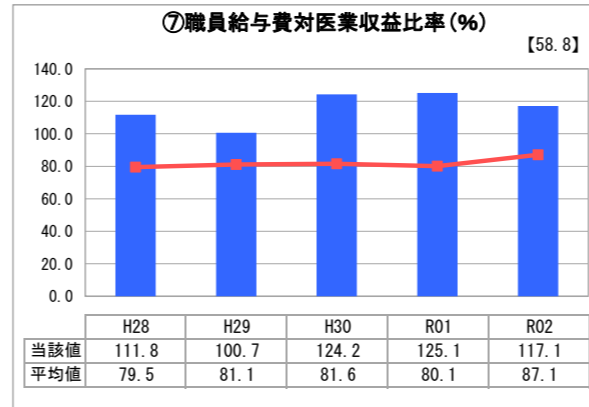
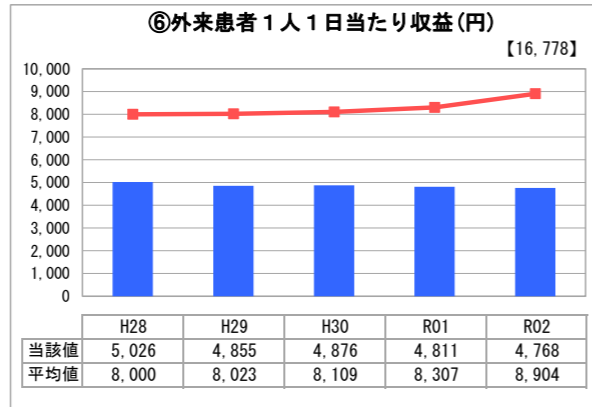
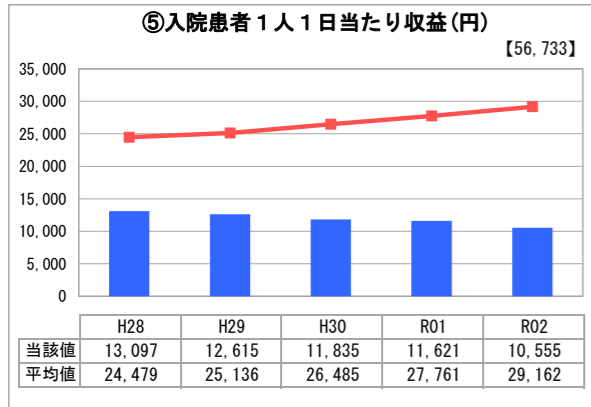
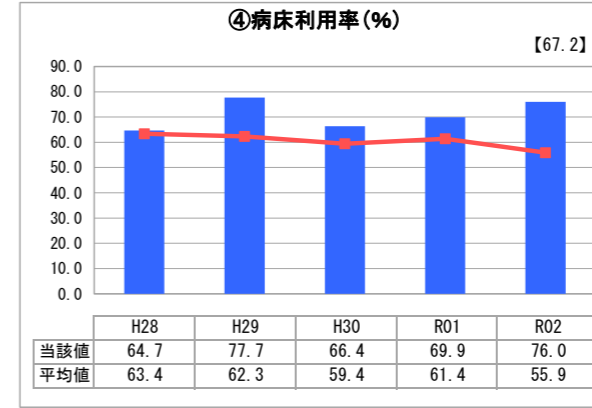
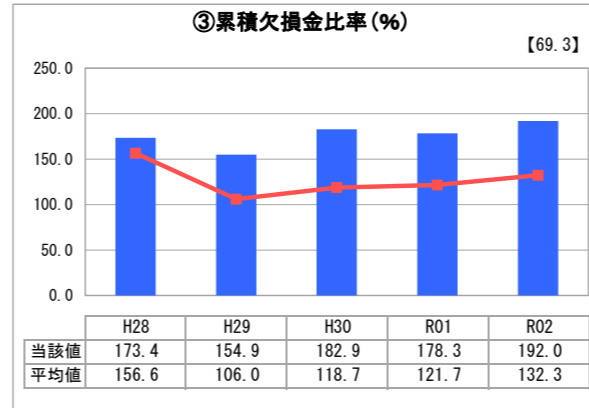
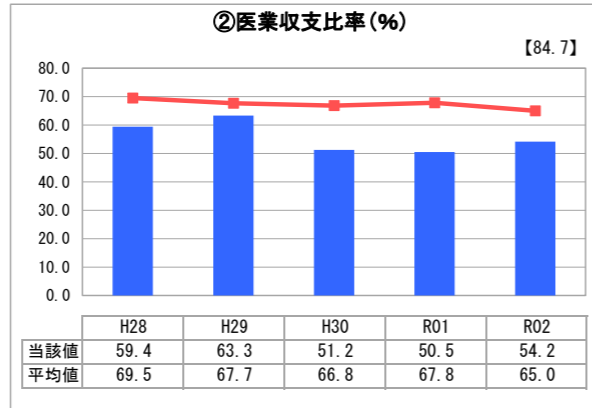
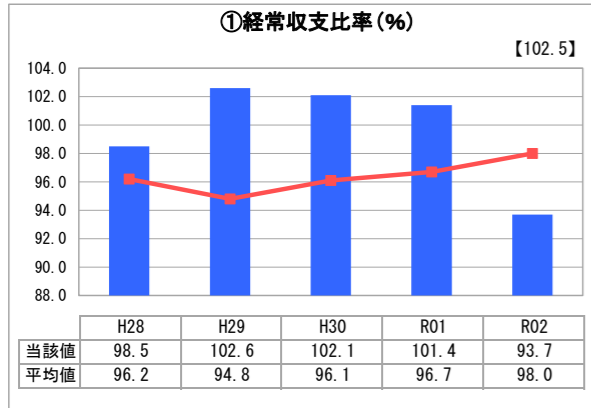
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

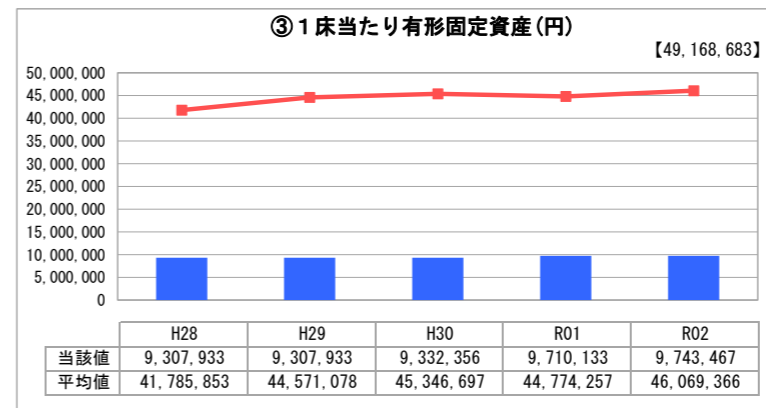
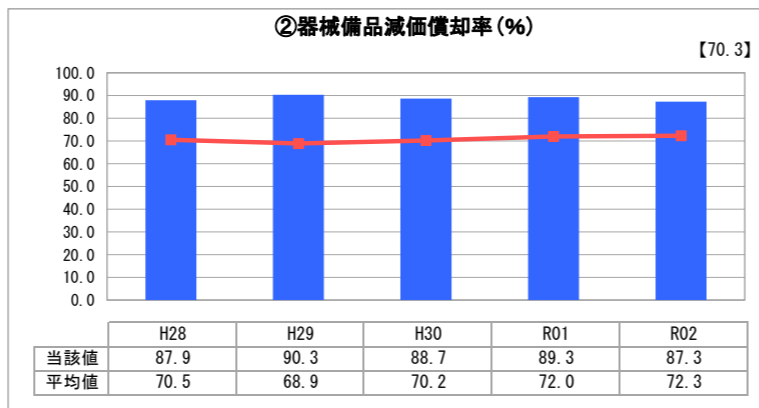
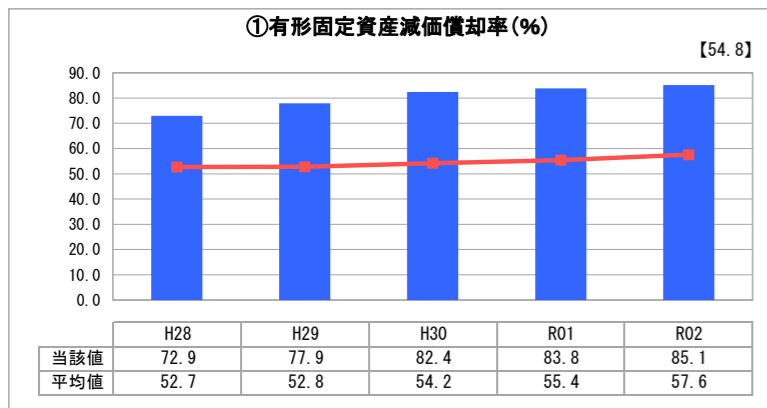
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	45	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	45
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	45	45

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

平成15年3月に当時の国立療養所稚内病院の移譲を受け、当該地域において不足していた療養型病院としてスタートした。入院医療では宗谷二次医療圏において、急性期病院の役割を担う市立稚内病院（本院）と、慢性期医療を必要とする患者を受け入れる市立稚内こまどり病院（分院）として機能分化を行っている。また、在宅・介護関連事業所との連携体制し、患者の症状や病態にあった医療サービスの提供を行う。外来医療においては、当医療圏で不足しているかかりつけ医としての機能を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成18年度の診療報酬改定において、特に、療養病床の削減計画と新たな医療区分の導入に伴う再評価によって診療単価が大幅に引き下げられた。さらに、平成28年度の診療報酬改定では新たに入院基本料の算定要件として重症度割合が追加され、算定要件を満たすことが出来ず、入院基本料は、平成28年度から5%、平成30年度から10%、令和2年度から15%減額され、1人1日の入院単価は大幅な減少となった。令和2年度は入院患者数の増加により、医業収支比率は改善する一方、繰入金金の精査により経常収支比率は100%を割り込み93.7%にとどまっている。

2. 老朽化の状況について

国立病院再編成計画に基づく廃止に伴う譲渡を受け、療養型病院として療養病床の基準を満たすための改修及び付帯設備等について改修を行ったが、国立時代の全面改修も昭和53年頃で、こまどり病院も開設して17年経過し、毎年度、部分的な修繕で対応しているが、付帯設備等は全面的な改修を必要とする。

全体総括

今後においては、国の医療施策の動向に注視しつつ、本院及び市内在宅介護関連事業所との連携を図り、患者の受け入れ、地域にとって必要な医療の提供を行います。
また、医療資源、収支状況、施設老朽化等の状況を考慮し、地域全体の慢性期医療を維持することを念頭に、市立稚内こまどり病院の事業継続について検討を行う。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。